

神戸輝夫の 二豊漢学講座

2024年度(第八期)

大分県の文化的土壌の底層には二豊（豊前・豊後）の各地で花開いた漢学が息づいています。漢学とは特に江戸時代に学ばれた中国伝来の学問の総称で、具体的には哲学、歴史学、文学、地理学、漢方（医学）、本草学、天文学、数学、農学、書道、絵画、武術などの分野に及んでいます。この講座では、二豊の著名な漢学者について紹介します。

かんべてるお

講師：神戸 輝夫

元APU孔子学院学院長、前APU教授、大分大学名誉教授
1939年4月 京都生まれ
1964年3月 京都大学文学部史学科(東洋史学専攻)卒業
1966年3月 京都大学大学院文学研究科修士課程修了
1970年3月 同博士課程単位取得満期退学
大分大学教育学部長、放送大学大分学習センター長などを歴任。
主な研究分野は、中国における漢族と少数民族の摩擦問題、
アジア・太平洋戦争期における日本の中国文化侵略、
大友宗麟時代の中国・朝鮮・東南アジア交流史研究、
シルクロード文化史研究。
2017年11月 瑞寶中綬章 受章



皆様とお会いできるのを
楽しみにしております。

前期 【第一回】 5月16日(木) 13:00~14:30

「杵築藩士矢野毅卿に始まる李賀風漢詩の系譜」

【第二回】 6月13日(木) 13:00~14:30

「福岡藩儒学者亀井南冥・昭陽父子と二豊の漢学者（その一 廣瀬淡窓）」

【第三回】 7月4日(木) 13:00~14:30

「岡藩士田能村竹田とその画友浦上玉堂・春琴父子との交流」

後期 ※詳細が決まり次第お知らせいたします

【第四回】 10月 「福岡藩儒学者亀井南冥・昭陽父子と二豊の漢学者
（その二 帆足万里、毛利空桑等）」

【第五回】 11月 「『追思録』に見る廣瀬旭荘の人物像」

定員：各回100名
参加料：無料
お申込み：次ページに記載

会場：J:COMホルトホール大分
大会議室
※開始30分前から入場可
※後期の会場は未定

神戸輝夫の二豊漢学講座

2024年度(第八期)

前期講座の内容

【第一回】5月16日(木) 13:00~14:30

「杵築藩士矢野毅卿に始まる李賀風漢詩の系譜」

矢野毅卿(1772~1816)は若い時に三浦安貞(梅園)に学びその才能を高く評価され、後に杵築藩の儒者に登用された。「梅園三語」の優れた理解者であるとともに漢詩では晩唐の詩人李賀風の作詩を行い、その伝統は佐伯藩の明石秋室、中島子玉に引き継がれた。



杵築城

【第二回】6月13日(木) 13:00~14:30

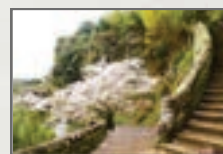
「岡藩儒学者亀井南冥・昭陽父子と二豊の漢学者(その一 廣瀬淡窓)」

儒学者亀井南冥(1743~1812)は福岡藩の藩校甘棠館の責任者であり、その学風は荻生徂徠に始まる古文辞学派の系統である。南冥の長子昭陽(1773~1836)も同じ。この父子の「亀井塾」に学んだ二豊の儒学者は十人余を数える。今回は廣瀬淡窓を取り上げる。

【第三回】7月4日(木) 13:00~14:30

「岡藩士田能村竹田とその画友浦上玉堂・春琴父子との交流」

田能村竹田(1773~1835)の『師友画訪録』などには交流した画友の名前が散見する。岡山藩の支藩鴨方藩を脱藩した浦上玉堂(1745~1820)、その長子春琴(1779~1846)もそれらの一人である。彼らの交流の場は大坂、京都であった。



岡城の桜

お申し込みについて

お申し込みは必須ではありませんが、人数把握の為、可能な方は事前にお申し込みください。お申し込みいただいた後の事務局からのご連絡はございません。お申し込みをされる方もされない方も、受講日当日に会場へお越しください。なお、お申し込みをされずにご受講いただく方には会場にてご住所等をご記入いただく場合がございます。

お申し込み方法：オンライン申込フォーム(<https://forms.office.com/r/7RP7PPhMHe>)を提出
※フォームの提出は年度内1回のみで結構です。

申込フォーム QRコード



お問合せ

立命館アジア太平洋大学 孔子学院事務局

(平日10:00~17:00)

住所：〒874-8577

電話：0977-78-1188

大分県別府市十文字原1-1

FAX：0977-78-1189

立命館アジア太平洋大学

メール：confuapu@apu.ac.jp

BII棟1階

ホームページ：<http://apu-confucius.com/>